

多くの町民が参加

市町村合併を考える

羽島郡リレーシンポジウム開催

「市町村合併とまちづくり」と題した基調講演をする西村貢教授



郡町村合併問題研究会・郡町村議会議長会の主催で「市町村合併を考える羽島郡リレーシンポジウム」が、川島町を皮切りに開催され、笠松町では5月30日、中央公民館で開催されました。

町では、合併問題について過去数回広報で特集を組んできましたが、今回は、このシンポジウムの内容をできるだけ詳しくお伝えします。

広江町長あいさつ

羽島郡四町では、昨年七月から合併問題についての調査研究を行ってきました。明治、昭和の市町村合併は、国の指導による合併でありました。地方分権の実施段階に入っていることを踏まえて、果たして私たちは今のままで良いのか、合併した方が良いかを議会や行政の立場を超えて、前向きに、しかも、感情に惑わされることなく、笠松町というコミュニティ（地域共同体）が、もっと住み良いまちになるように進めていきたいと思っています。本年度は、合併特例法の期限から考えて合併について考える分岐点に立っており、冷静に皆さんのご意見を聞きながら結論を出していかなければなりません。

「市町村合併とまちづくり」と題して 岐阜大学地域科学部 西村貢教授の基調講演(要約)

笠松町は、伝統があり文化性が高く、自然環境も良く、特に福祉施策への取り組みが積極的です。町民の皆さんは、このままで良いのではないかと、うのが率直な考えではないかと思っています。しかしながら、町の財政は、町の税収のみで運営されているわけではなく、国の地方交付税制度で賄われているのが現状で、その国の財政は著しく悪化して借金財政で運営されています。したがって、今後地方交付税が削減されてきますので、今までの住民サービスが受けられるかどうか、合併に賛成、反対であるうが、克服していかなければならない問題で

す。平成の市町村合併は、明治、昭和の合併とは意味が違い、合併特例法で二〇〇五年三月までは、人口四万人以上で市になることが認められています。それ以降は、通常の人口五万人以上で市となります。市町村合併の手続き期間は、おおむね二十二月かかると言われています。今年度は、決断の時期であり、選択の時期であります。合併問題を先送りすることは、合併を断念したことになります。合併パターンによって二〇年、三〇年やっていけるかを冷静に判断する必要があります。また、合併ありきではなく、「自分たちの町を将来どんな町にしていきたいか」を基本に、まちづくりの手段としての合併について皆さんで議論していただきたいと思

「今、なぜ合併が必要とされるのか」をテーマにパネルディスカッション

パネラーとして参加していただいた皆さん (敬称略)

- ・ 地域問題研究所 松村久美秋調査研究部長
- ・ 岐阜地域振興局 平光節夫振興課長
- ・ 笠松町長 広江正明
- ・ 町議会議員代表 安達一願議員
- ・ 町商工会 後藤高美青年部長
- ・ 町広域行政のあり方を考える懇話会 小栗知津子委員

安達 国の財政悪化により、地方交付税が削減されるなど、合併問題は避けて通れない課題として考えなければならぬということ、昨年十二月